路地から見る歴史と文化
ー「まち」おこしとしての財産を活かすためー

内山　敏典

路地、それは過去からの歴史や文化の蓄積であり、街道（陸路）や海路の町並みの一歩入組んだ所にある。そして、そこには「まちおこし」の原点がある。

本書は、各章に注と参考文献を記載している。各章で用いた参考文献は注などの引用のため、同じものがある点と、参考文献と注は連番となっている。その点、留意していただきたい。

目　　次

１．はじめに -------- 1

２．尾道市（広島県尾道市）の路地から見える歴史と文化 -------- ３

３．大町町（佐賀県杵島郡大町町）の路地から見える歴史と文化 -------- 17

４．高松市（香川県高松市）の路地から見える歴史と文化 -------- 37

５．琴平町（香川県仲多度郡琴平町）の路地から見える歴史と文化 -------- 49

６．おわりに -------- 62

著者紹介 -------- 63

１．はじめに

現在の路地、それは人の営みの場であり、営みの場は「町」の発展とともに発生的または計画的に生まれており歴史を内包している。「町」の発展は歴史を遡れば、社会が動くことが遠因となっている。その遠因として考えられるのは「荘園」の関わりがある[注1)]。荘園[注2)]は奈良時代（710～794 年）の終わりごろから鎌倉時代（1185～1333 年）まで続いた農園である。荘園ができるまでは、農地はすべて朝廷が持っていた。大化の改新（645 年）以降の古墳時代は豪族が地方ごとの決まりで土地や人を支配していたが、672 年の壬申の乱（じんしんのらん）に勝利して天皇中心の中央政権を実現したのが天武天皇とその跡を継いだ持統天皇（天武天皇の后）以降であった。持統天皇のもとで班田収授の基礎となる戸籍が整備され、692 年に全国的な班田収授法が始まった[注3)]。701 年の大宝律令で律令制度が整備され 6 年ごとに戸籍が作られ、6 歳以上のすべての人に口分田を貸し与えるという決まりが出来ていた[注4)]。口分田は 1 代限りで、その人が亡くなると班田収授法によって朝廷に返還することとなっている。班田収授法においては 6 年ごとに戸籍を作り、口分田からとれる米のうちの約 3%を租税として朝廷に納め、米以外の特産物も納めることが決められていた。また、地方の役所である国府が必要とする工事に 60 日間使うという決まりや、国府で必要なお米を得るために、農民に米もみを貸し与え利子を取ることも行われていて、また男子は皇居の警護や関東の農民は防人としての警護もあった。このような厳しさから口分田を捨て、逃げ出す農民が増加した。そこで朝廷は新たに開発した農地は親・子・孫の３代まで認めるという「三世一身の法（さんぜいっしんのほう）」を出したが、この法も返還しなければならないというもので農民にとって生産意欲がわかないという欠点があった。743 年に朝廷は耕作した土地は永久にその農民のものになるという「墾田永年私財の法（こんでんえいねんしざいのほう）」を出している。

「墾田永年私財の法」は資金を有す大きな寺院、神社および貴族に有利な法であった。寺院、神社および貴族は新しい土地を探し出し、近くの農民や、口分田から逃げ出した人々を雇用し原野を耕している。「荘園」はこのようにして拡大していった農地や農村を含む地域で確立されている。この荘園は近畿地方を中心に全国に拡大した。

平安時代[794（延暦 13）～1185（文治元年）：桓武天皇が平安京に都を移してから鎌倉幕府成立まで]に藤原氏などの有力な貴族たちが政治を行うようになるにつれ、荘園が国家への租税の一部またはすべてが免除される「不輸の権（ふゆのけん）」を得ることを目的とした国司が多く出現した。国司の出自の多くが朝廷からつかわされた貴族で、そのなかには皇族も多くいた。このような国司

のなかには部下の役人を使って他人の土地の略奪や重税をかけての略奪を行っている者もいた。多くの荘園が、朝廷のものではなく、藤原氏をはじめとする貴族たちのものになっている。このような状況下では、自らの土地は自分たちで守るという有力な農民の誕生をみた。これが武士の誕生の始まりとなる。この武士と任期が切れても京都へ戻らない国司とが結びつき、武士をまとめる武士が生まれた。武士をまとめる武士団の頭領の代表的なのが源氏と平氏である。平安時代の終わりごろまで平氏が国司を支配し、多くの土地を支配した。

平氏滅亡後、鎌倉に武士の政権を作った源頼朝[1147（久安 3）～1199（正治元）年：鎌倉幕府初代将軍]が全国支配を目指すが、朝廷を中心としたシステムが出来上がっているためにすべてを掌握するということはなかった。そこで、頼朝は自分と主従関係を有した武士を御家人と呼び、御家人を守護（国司と同様の力を持つ地方の警察長官）と地頭（荘園ごとに配置された町や村の警察官と税金を徴収する人）として、全国に配置しようとした。1221 年に起きた承久の乱（じょうきゅうのらん）によって、幕府に敗北した朝廷はすべての荘園に新しい地頭（「新補地頭」）を置くことを認めざるを得なくなっている。荘園内では鉄、漆器、和紙など多様な商品も生産されている。

上述のように、朝廷中心の時代から鎌倉執権の荘園制のある程度の弾力的な社会になると、人の交流および商品流通などのために陸路や海路が発達してくることとなる。それにともない「宿（しゅく）」、「町（まち）」などが全国的に発展していく。

注 1）荘園については諸説あり、本書での荘園は著者解釈である.
注 2）主な荘園の分布については、参考文献[1]の 30 頁を参照のこと.
注 3）班田収授法[制]については、参考文献[1]の 60 頁を参照のこと.
注 4）参考文献[1]の 60 頁によれば、必ずしも 6 歳とは限らなかったという記載がある.

[1] 日本史教育研究会『Story 日本の歴史　―古代・中世・近世史編―』山川出版社, 2001 年.
[2] 歴史学研究会編『日本史年表　第 4 版』岩波書店, 2001 年.
[3] 新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』株式会社新潮社, 1995 年.
[4] 三省堂編集所編『コンサイス　日本人名事典　改訂新版』株式会社三省堂, 1999 年.

広島県尾道市

２．尾道市（広島県尾道市）の路地から見える歴史と文化

現在の尾道市は、1169（嘉応元）年に備後国大田庄（びんごこくおおたのしょう）倉敷地に公認されたことによるとされている。それまでは海辺にそった小さな集落で尾道浦といわれていたとのことである。この大田荘は平安時代には、中国山地の広大な世羅台地に広がる平氏の領地であったが、そこで作られた年貢米を京の都へ積み出す倉敷地（港）がなく、大田庄から近く、天然の良港として機能を備えていた尾道を大田庄の倉敷地とするよう、嘆願がだされたとのことです[注5)]。

また、小早川宣平（のぶひら）氏の北朝側が南朝側を破って勝利し、荘園としての生口島はその子である惟平（つちひら）が支配し生口（いくち）氏と名乗っている。生口氏は海上支配と水軍の発達に大きく貢献するとともに、生口島の港町瀬戸田の発展にも貢献しているとのことである。とくに海運業者との関係を望む武家勢力には、港町尾道と同様に、寺院に対する寄進が効果的な手段であった[注6)]。足利尊氏が九州へ向かい菊池氏との戦い（多々良川の合戦）に勝利し、九州で勢力を蓄え京都に向かう際にも、尾道の寺院（浄土寺）に戦勝を祈願している。

足利尊氏が尾道の浄土寺を訪れたのは、港町の商人やその商人が海運の安全や商業の発展を祈る信仰対象が寺院であり、商人たちの拠り所ともなっているということも関係がある。尾道はこのような事由で寺院が多く存在している。すなわち、尾道は中世には倉敷地としての港町、近世の海路が西廻海運航路そして陸路が西国街道と出雲街道（石州銀山道）、近代では国道 2 号と山陽本線、現代では尾道バイパス、山陽新幹線、山陽自動車道、西瀬戸自動車道および中国横断自動車道であり、尾道は交通の要衝で、そのような中で豪商が生まれ、活発な商業活動がなされ、神社仏閣への寄進がなされている。山陽本線の尾道駅が 1891（明治 24）年に暫定的に開始されると、人口が増えてくることになる。人口が増えるにつれ、住宅地不足となり、神社仏閣の敷地に住宅が建つことになる。ところが、現在のように少子高齢社会と産業構造の変遷で人口減少があり、古い空き家が見られるようになったが、高台のため立替などが難しく、それが観光資源につながってもいる。他の観光資源としては、神社仏閣以外、林芙美子や志賀直哉などの小説家の居宅、「ふたり」（大林宣彦監督の松竹映画：1991 年）、「転校生」大林宣彦監督の松竹映画：1982 年）（「時をかける少女」（大林宣彦監督の東映映画：1983 年）、「てっぱん」（NHK の連続テレビ小説：2010 年 10 月～2011 年 3 月）および「後鳥羽伝説殺人事件（浅見光彦シリーズ）」（内田康夫原作：TBS、2000 年、2048 年）など多くの映画やテレビのロケ地[注7)]、さらに「しまなみ海道サイクリング」を開催していて、現在の尾道市は国内外から

の集客がある。

ところで、現在の尾道市には 105 の神社仏閣があり、人口約 14 万人[旧尾道市、旧因島市、旧瀬戸田町、旧御調（みつぎ）町、旧向島（むかいじま）町]に対して多くの歴史的な神社仏閣や映画・テレビロケ地がある。旧尾道市だけでは、8 万 6,000 人。ピーク人口前者は 1950 年の 18 万 5,000 人、後者は 1975（昭和 50）年の 10 万 3,000 人と減少しているが、そのことが尾道のあらたなる住人の移住などと観光に寄与している。

尾道駅近くの土堂小学校付近からの神社仏閣巡りルートがあります。神社仏閣は坂道の路地裏にあり、高いところで千光寺の標高約 100ｍである。

参考までに、観光消費額 267 億 7,300 万円（2016 年）、2007 年の 160 億 9,000 万円から 1.7 倍の増加となっている。尾道の波及効果はその 2016 年の観光消費額をつぎの財政支出乗数（簡易的経済波及効果）で求めると約 567 億円の波及効果になる。なお、尾道市の観光客数は 2016 年が 675 万人、2017 年が 680 万人である。

波及効果の計算方法[注8)] は、

財政支出乗数

$$\frac{1}{1-MPC\times(1-Tax)}=\frac{1}{1-0.6\times(1-0.12)}=\frac{1}{0.472}=2.118644$$

2.11864×267.7300＝567.2235 億円の経済波及効果になります。

ここで、MPCは限界消費性向（Marginal Propensity to Consume: MPC）、Taxは平均税率である。MPCの 0.6 は尾道市の市民の平均年齢や地域力等を鑑みて増加した市民所得のうちの 6 割を消費に向けるということを意味している。平均税率は 12%である。

尾道市の規模からすれば、尾道市の観光産業は観光客数の点からすると充分であるのではと思われる。2016 年の観光消費額が 1 人当たり約 4,000 円で滞在型での支出が少ないことを示している。これが今後の課題と考えられる。この課題を解決すると経済波及効果はもっと大きなものとなるであろう。

浄土寺（尾道市東久保町 20-20：真言宗）

伝承では 616 年に聖徳太子によって開基されたとのことである。南北朝時代においては各勢力が浄土寺を味方につけようと外護（げご：俗人が権力や財力をもって仏教を保護した）に努めた。後醍醐天皇を中心とした勢力による鎌倉幕府倒幕運動である元弘の乱[1331（元弘元）年]には住職に綸旨（りんじ：朝廷からの勅旨などによる命令）を下して祈祷を命じるとともに、因島の地頭職を寄進した。足利尊氏は 1336（建武 3）年 2 月に九州に落ち延びていくときに浄土寺で戦勝祈願をしている。九州で南朝の菊池氏を打ち破り勝利再起の際にも訪れている[注 9)]。

千光寺（尾道市東土堂町 15-1：真言宗）

千光寺は大宝山の中腹（標高 140m）にあって、806（大同元）年に弘法大師が開基（創立）し、中興（復興）したのが多田満仲[源満仲（912(延喜 12)～997（長徳 3）年）:源氏の祖としての崇拝]と伝承されている[注 10)] [注 11)]。

志賀直哉[1883（明治 16）～1971（昭和 46）年]

大正・昭和期の小説家で、1922（大正 12）年に代表作である『暗夜行路』（前篇）、1937（昭和 12）年に『暗夜行路』（後篇）を完成させた。それ以外にも多くの短編小説や小説の作品があり、1949（昭和 24）年文化勲章を受章している。「志賀直哉全集」（全 14 巻、別巻 1）がある[注 12)]。

林　芙美子[1903（明治 36）～1951（昭和 26）年]

暗い人生経験を日記体で記した小説「放浪記」が有名である。また「林芙美子全集」（全 23 巻）がある[注 13)]。

吉備津彦神社（広島県尾道市東土堂町 9-16）

岡山の吉備津彦神社は童話「桃太郎」で有名である。尾道の吉備津彦神社の正式名称は一宮神社で「一宮（いっきゅう）さん」として親しまれ、1 月 1～3 日に行われる「尾道ベッチャー祭り」は秋の尾道を代表するお祭である。「ベタ」「ソバ」「ショーキー」の 3 体の鬼が観客らを持っている棒でたたいたり突いたりしながら尾道市内を練り歩く奇祭で、尾道市無形民俗文化財に指定されているとのことである[注 14)]。

注

注 5) 参考文献[5]の「港町の成立と発展」を参照.

注 6) 同 URL を参照.

注 7) 参考文献[8]の「広島県尾道市　ロケ地情報」から作成.

注 8) 参考文献[9]の 91 頁を参照.

注 9) 参考文献[7]の 643-646 頁を参照.

注 10) 参考文献[7]の 813-817 頁を参照.

注 11) 参考文献[10]の 1207 頁を参照.

注 12) 参考文献[10]の 598 頁を参照.

注 13) 参考文献[10]の 1015 頁を参照.

注 14) 参考文献[6]を参照.

参考文献

[5] https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/7/4011.html

[6] https://www.ononavi.jp/sightseeing/event/detail.html?detail_id=211

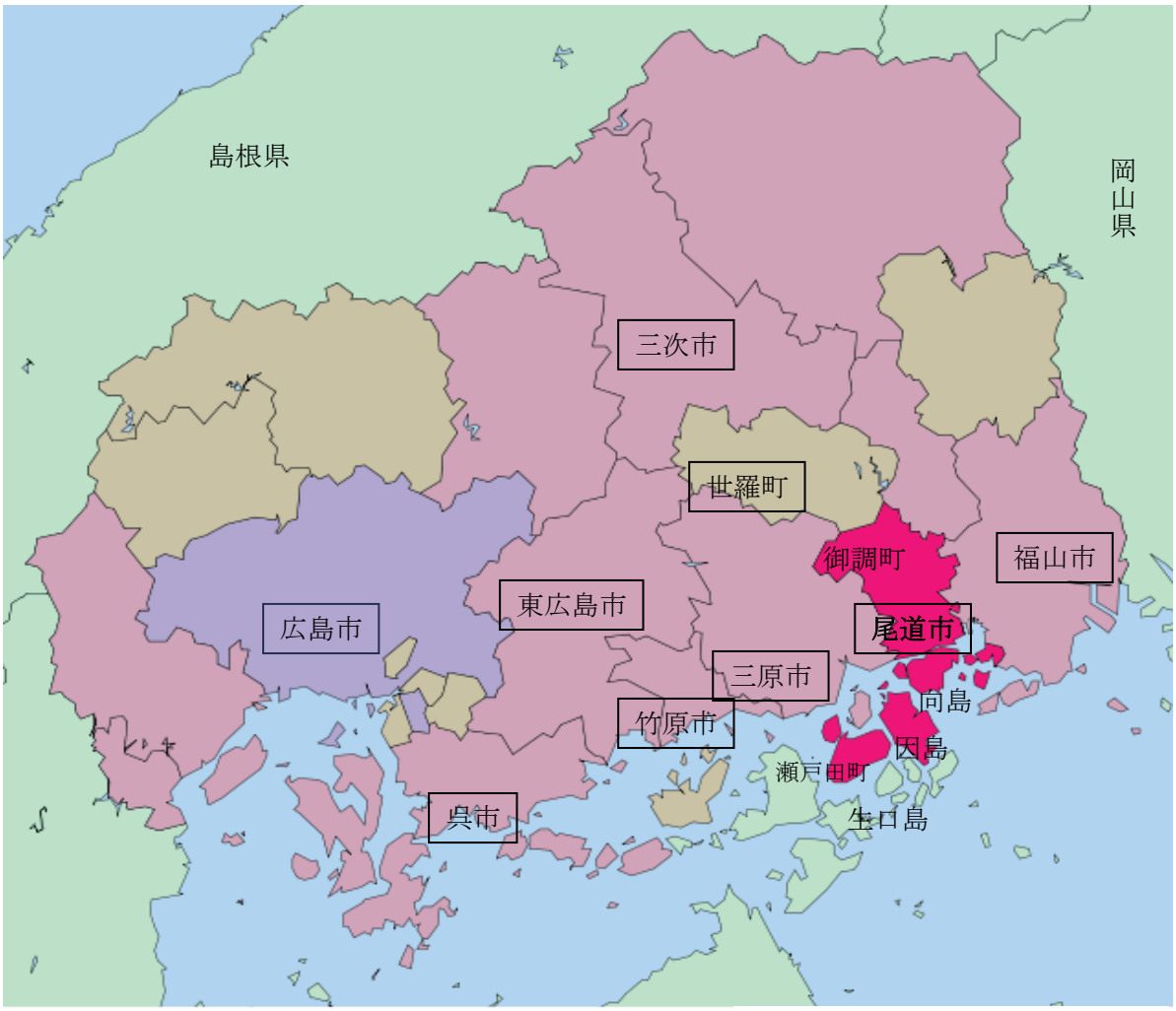
[7] 尾道市役所『尾道市史　上巻』尾道市役所,1969 年.

[8] loca.ash.jp/info/addr/cghsom.htm

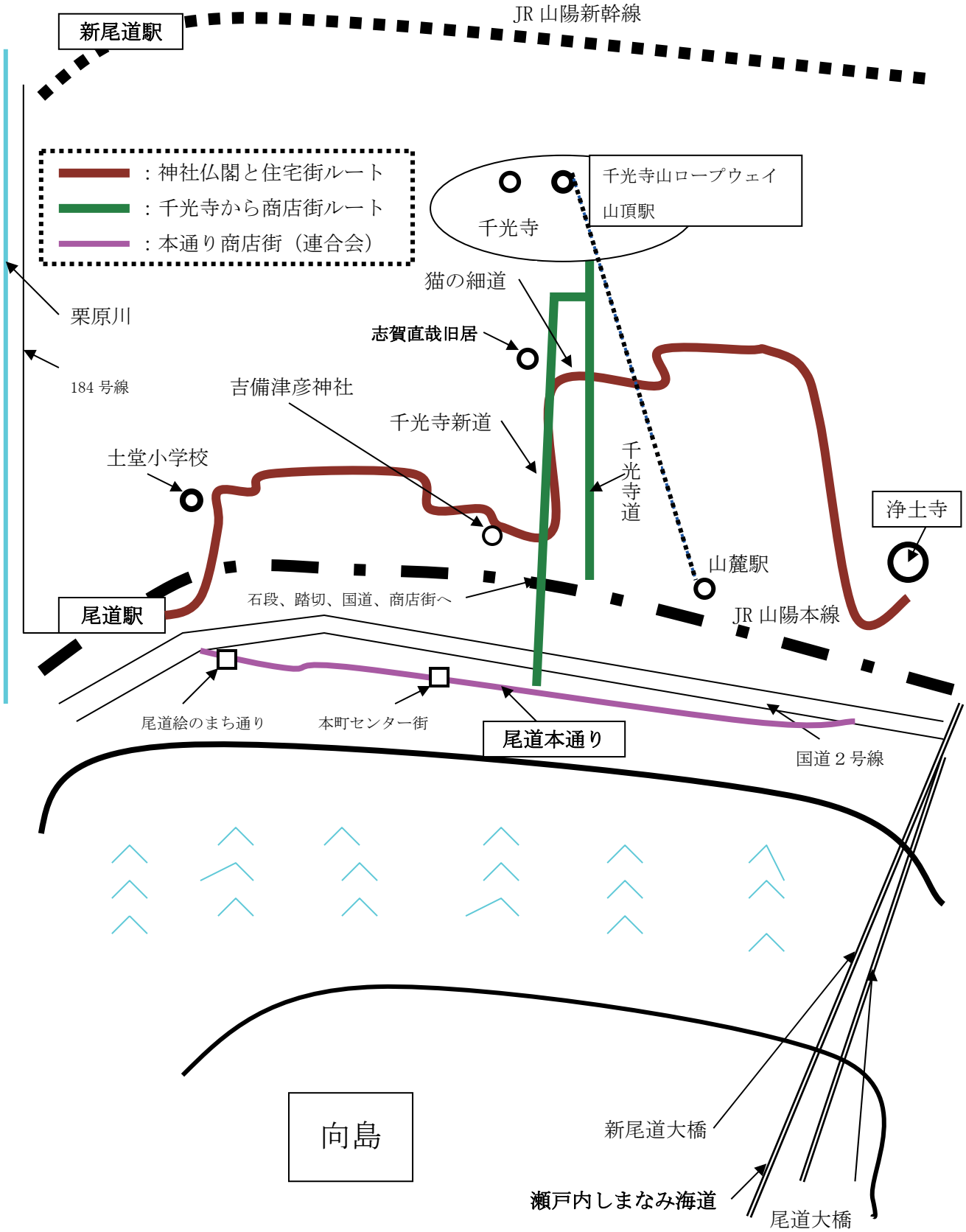
[9] 西川俊作『経済学（第 3 版)』東洋経済新報社,1988 年.

[10] 三省堂編集所『コンサイス　日本人名事典』三省堂,1999 年.

広島県全図と尾道市



尾道市マップ


新尾道駅
JR 山陽新幹線
：神社仏閣と住宅街ルート
：千光寺から商店街ルート
：本通り商店街（連合会）
千光寺山ロープウェイ
山頂駅
千光寺
猫の細道
栗原川
志賀直哉旧居
184 号線
吉備津彦神社
千光寺新道
土堂小学校
千光寺道
浄土寺
山麓駅
石段、踏切、国道、商店街へ
尾道駅
JR 山陽本線
尾道絵のまち通り
本町センター街
尾道本通り
国道２号線
向島
新尾道大橋
瀬戸内しまなみ海道
尾道大橋

尾道本通りの一つである「尾道絵の町通り」

寺地域の中の吉備津彦神社（一宮神社）

尾道の路地細道を歩く

尾道の路地細道を下る

尾道の路地の細道を歩き進む

墓も眺めるしまなみ海道

志賀直哉、旧居で『暗夜行路』執筆

志賀直哉旧居前の小雨の降る下り石段

文豪志賀直哉も眺めた尾道市街と、昔はなかったしまなみ海道

猫の細道

千光寺通りと山陽本線 1

千光寺通りと山陽本線 2

尾道市本通り商店街の裏路地

尾道本通りの一つである「センター街」

街の絵模様（尾道市本通り商店街から港の方）

尾道本通りの裏路地

佐賀県大町町

３．大町町（佐賀県杵島郡大町町）の路地から見える歴史と文化

佐賀県には多くの荘園が存在し、旧杵島郡には太田荘、杵島荘、長島荘、墓崎荘および大町荘があった[注15)]。

前章では荘園制度が果たした役割について記述しているので、ここでは割愛する。

現在の佐賀県杵島（きしま）郡大町町は、佐賀県のほぼ中央部に位置している。国道 34 号線に並行して長崎本線肥前山口から分かれて JR 佐世保線が通っている。大町町の総面積は、同町のホームページによれば、11.50 平方キロメートルで、東西 4.46km、南北 4.25km の菱形に近い形をしているとのことである。JR 佐世保線大町駅より北側は大町町を歩いて散策できるくらいの面積である。大町町の福母八幡宮、大町八幡神社の山門前には旧長崎街道が通っている[注16)]。大町町は、江戸時代において横辺田代官所があり、江北町の小田宿と北方町の北方宿の真中に位置していた。大町町の旧長崎街道周辺には幕末頃から石炭が発見されて採掘がなされたという記録があり、1826（文政 9）年にシーボルトが将軍に居城の江戸へ旅行した際に福母の炭坑を視察したことが「江戸参府紀行」に記述されているとのことである[注17)]。

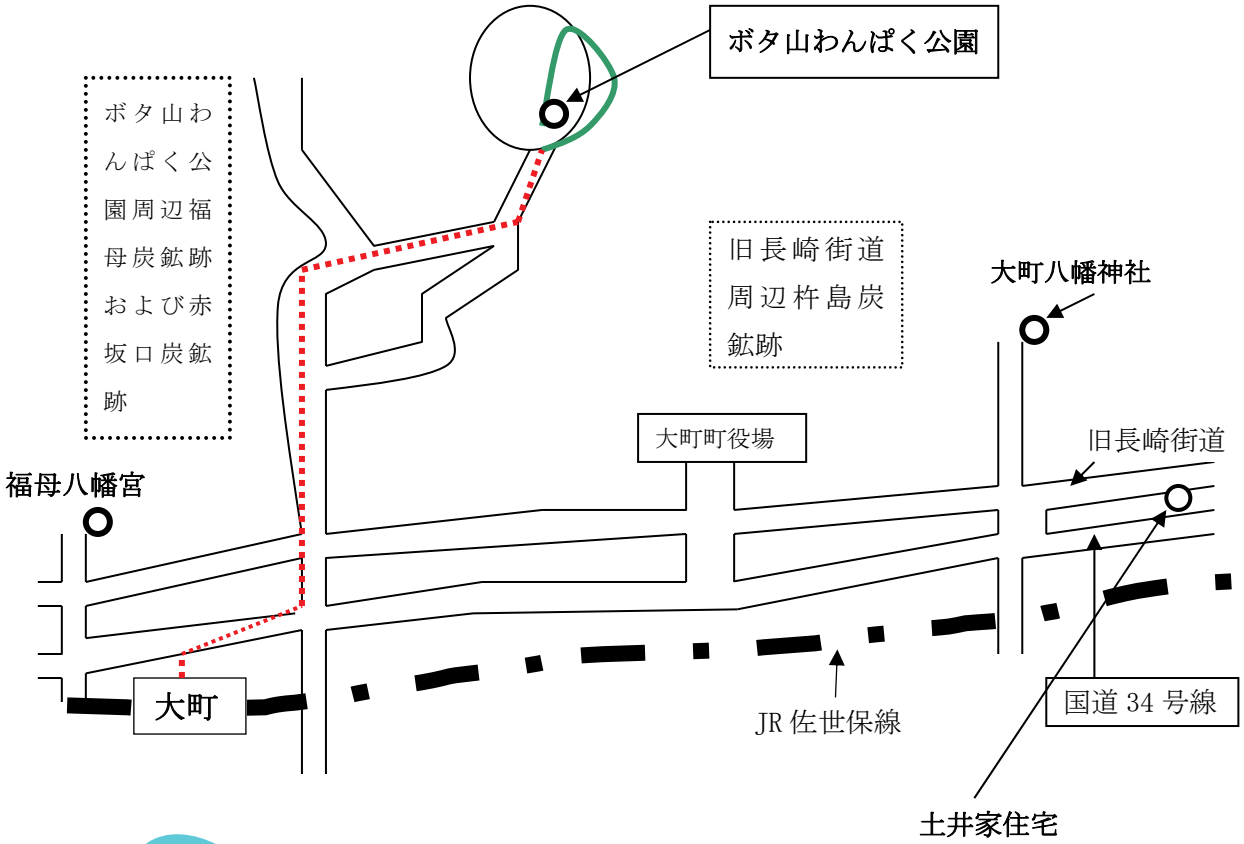
大町町の人口がもっとも多い年は 1941（昭和 16）年 24,000 人で、わが国のエネルギー革命によって杵島炭鉱閉山のための人員整理が始まった 1961（昭和 36）年から 1969（昭和 44）年の炭鉱閉山後の 1970（昭和 45）年に総人口 10,649 人となり、2015（平成 27）年の総人口は 6,777 人（世帯数 2,560 世帯）となっている[注18)]。

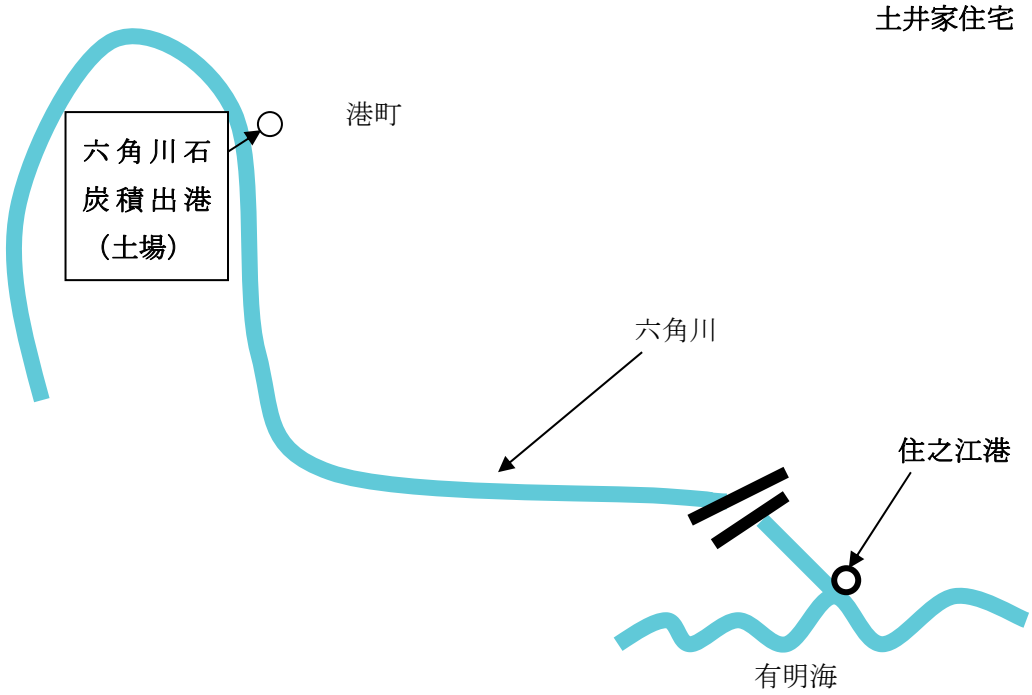
ところで、大町町の石炭は江戸時代の安永（1772～1780 年までの期間）から天明（1781～1789 年までの期間）にかけて石炭が発見されて以来興廃存亡を繰り返してきたとのことである。そして、1881（明治 14）年 3 月発行の長崎県勧業課編『鉱山沿革調』に福母村からの報告として「慶応開業し出炭額 1 ヶ月凡そ 30 万斤（180 屯）採掘している」との記述があり、大町町福母の石炭の採掘が古くからなされてきたといえる[注19)]。

杵島炭鉱［1920（昭和 4）年に北方町から大町町へ本拠を移している］は高取伊好が創業者であり、福母炭鉱、1918（大正７）年に佐賀炭鉱（当時の大谷口炭坑：杵島三坑）を大きく開発したのは大町町出身の中島徳松であり中島鉱業所[注20)]を経営していたが、委託経営後高取伊好の所有となり 1915（昭和 4）年 8 月 28 日に杵島炭鉱株式会社に改組し大町町へと移行しているとのことである。その大町町には杵島三坑および杵島四坑があり、北方町には杵島本坑および杵島二坑、江北町には杵島五坑があった。杵島炭鉱株式会社は 1931（昭和 6）年に肥前町大鶴炭鉱および杵島五坑へと拡大していった。

昭和初期は不況であった石炭産業は、1935（昭和 10）年前後から回復に向かい、杵島炭鉱は、肥前町大鶴鉱業所の出炭高を併せて 1937（昭和 12）年の県内出炭高 109 万ｔのうち 83 万ｔで 76.1％驚異的な記録を示したとのことである。1940（昭和 15）年には、休止していた北方炭鉱（西坑）が 1944（昭和 19）年には同鉱（東坑）も再開されている[注21)]。わが国における炭鉱は戦争と敗戦により壊滅状態に陥ったがその状況を救ったのが、「傾斜生産方式」であった。傾斜生産方式とは、GHQ による占領下において、当時の基幹産業である鉄鋼および石炭に資材・資金を超重点的に投入し、両部門相互の循環的拡大を促し、それを契機に産業全体の拡大を図るというものであった。工業復興のための基礎的素材である石炭と鉄鋼の増産に向って、すべての経済政策を集中的に傾斜することから、その名が付いている[注22)]。これにより、たちまち労働者・資材が確保され、赤字補給金は、各所に行き渡ったとのことであった。掘り出された石炭は、六角川岸の土場から船積みして住ノ江港へ運び、そこから各地に送られた。福母炭鉱、三坑および四坑から土場まで軌道が敷設されていた。しかしながら、エネルギー革命とともに杵島炭鉱は、1969（昭和 44）年に閉山となる。なお、杵島炭鉱に関する詳細については、『大町町史　下巻』の第 8 章「石炭産業」参照していただきたい。

ボタ山わんぱく公園（佐賀県杵島郡大町町大字大町 4656-1）
土井家住宅（佐賀県杵島郡大町町大町 1045）
大町八幡神社（佐賀県杵島郡大町町大字大町５６９２）
福母八幡宮（佐賀県杵島郡大町町大字福母２２２７）
六角川石炭船積港（大町駅近く）
六角川住之江港（六角川河口）





ボタ山わんぱく公園

旧長崎街道沿いに杵島炭鉱のボタ山を利用してつくられた多目的広場があり、サッカーグラウンド、ゲートボール場および人工の草スキー場などができるようになっている。ボタ山からは六角川の石炭積出港跡や旧炭鉱住宅を遠望できる。

土井家住宅

土井家住宅は旧長崎街道沿いにあり、国の重要文化財として 1974（昭和 49）年 2 月 5 日に指定を受けている。土井家の説明板によれば、江戸末期までは酒屋として建てられたが、明治初期に農家であった土井家が所有して現在に至っているとのことである。家の構造は妻入りであり、外観は町屋風であるものの、敷地面積の半分が土間造りとなっているので農家風でもあり、この地方の大型町家の一つの形態と推定されているとのことである。

大町八幡神社

大町八幡神社は、縁起略紀によれば、724（神亀元）年に宇佐八幡から勧請したとのことである。これは大町庄が宇佐八幡の荘園であったためといわれている。旧長崎街道沿いにあり、杵島第四坑が近くにあった。

福母八幡宮

福母八幡宮のご祭神は仲哀天皇、神功皇后および応神天皇であり、摂末社として 13 柱があげられている。13 柱の 5 柱は景行天皇が祀っている。この八幡宮は旧長崎街道沿いにある。福母炭鉱、杵島三坑がこの八幡宮の近くにあったし、参道には寄進碑に杵島炭鉱、中島刄松が見える。

六角川石炭船積港

各炭鉱から引込み線を通じて石炭を土場（六角川石炭船積港）に運び、船で六角川河口の住之江港に運ばれ、有明海をとおって各地に送られていた。

中島徳松［1875（明治８）年～1951（昭和 26）年］

中島徳松は納屋頭の家に生誕、17 歳の時に伊万里地方で自営の炭坑を始めている。1899（明治 32）年に筑豊地方へ出て多くの炭坑に関わり、1915（大正４）年には嘉穂郡穂波村（現在の福岡県飯塚市）で大徳炭坑を開発、これが後に飯塚炭鉱とよばれる大炭鉱に成長した。大正 7 年（1918）に中島鉱業株式会社を設立すると故郷・大町でも大谷口炭坑を買収して佐賀炭坑と改称、施設整備に

着手している。このように、中島徳松は大町に貢献してきた人物でもある。また、佐賀炭鉱のほかに福岡県宇美町の昭和鉱業所等の経営者で貴族院議員でもあった。福岡市中央区にある料亭稚加栄は中島徳栄の持ち家を 1961（昭和 36）年に改装している。福岡市早良区野芥には早世した長男や炭鉱事故で亡くなった人々の菩提を弔うために建立された徳栄寺がある。徳栄寺の徳は徳松の「徳」、栄は徳松の妻である栄子の「栄」を合わせて徳栄寺と名づけているとのことです。その名残か早良区野芥の妙見口五差路のタバコ屋さんには「お願い　切符は必ず停留所でお買い求めの上乗車前に車掌にお示し下さい：旅館 嬉野館：嬉野温泉」というコマーシャルがかかれている看板があったが、改築され今はもうない。ところで、炭鉱経営者は時代とともに変遷していくが、佐賀炭鉱中島鉱業所は杵島炭鉱（経営者：高取伊好）に買収されている。この杵島炭鉱は佐賀県肥前町の大鶴炭鉱を経営することになる。杵島炭鉱は 1969（昭和 44）年に閉山している。肥前町の大鶴炭鉱は現在「にあんちゃんの里」となっている。「シナリオ にあんちゃん」は日活で映画化されたときのものである。家族愛の醸成の映画で、とくに団塊の世代は学校を通じてこの映画を鑑賞している。また、著者である安本末子さんの還暦（2003 年）に復刻版が刊行されている。

高取伊好［1850（嘉永 3）年 11 月～1927（昭和 2）年 1 月］

高取伊好は 1850 年に佐賀藩多久領の武士、鶴田斌（つるた　ひとし）の三男として生まれ、8 歳のとき姉の嫁ぎ先（佐賀水ケ江）の高取家の養子となった。伊好は東京で法学を学んでいた長兄のもとから、1871（明治 4）年、箕作奎吾（みつくい　けいご）の英学塾の三叉塾（さんさじゅく）で英学、その後、慶応義塾に移り、英学・鉱山学を学んだ。慶応義塾卒業後、官費学校の鉱山寮に入学、採炭技術を学んだのち、工部省に採用され高島炭鉱に赴任している。長崎および佐賀両県の炭鉱開発を行い高島炭坑取締役、明治唐津鉱業組合に就く。1885（明治 18）年に多久市の柚ノ木原炭鉱などの開発を行うが三菱などの大資本の買収があり、また大恐慌と重なり手放すことになる。1909（明治 42）年杵島炭鉱（大町町の福母炭坑など）を買収し、大規模開発を行い肥前の炭坑王となり、従業員 5,000 以上を抱えた。

注

注 15) https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%82%A5%E5%89%8D%E5%9B%BD

注 16) 参考文献[12]の 332-333 頁を参照.

注 17) 参考文献[13]の 96-99 頁を参照.

注 18) 総人口は『国勢調査』より

注 19) 参考文献[12]の 332-333 頁を参照.

注 20) 同書,378～379 頁.

注 21) 同書,388 頁.

注 22) 参考文献[11]の 272～273 頁を参照.

（参考文献）

[11] 大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』岩波書店,1969 年 8 月.

[12] 大町町史編纂委員会編集『大町町史　下巻』大町町教育委員会内大町町史編纂室,昭和 62 年 9 月.

[13] 河島悦子『伊能図で甦る古の夢　長崎街道』株式会社ゼンリン,1999 年 1 月.

[14] 佐賀県史編さん委員会『佐賀県史　下巻（近代史）』佐賀県,1967 年 3 月.

[15] 隆慶一朗「シナリオ にあんちゃん」『隆慶一朗全集 第 6 巻』新潮社,1996 年 4 月.

[16] 内山敏典『早良逍遥マップ記　―　歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ　―　』城島印刷有限会社,2003 年 12 月.

[17] 安本末子『にあんちゃん』西日本新聞社,2003 年 6 月.

六角川（往時の石炭の積み出し港があった川）

福母神社

福母神社の玉垣（中島の文字が見える）

ボタ山わんぱく公園（マピオン地図では標高 95m）

煉瓦館杵島炭鉱の変電所跡

煉瓦館へ向かう坂道

煉瓦館にあった写真１（電車道とボタ山）

煉瓦館にあった写真２（杵島球場、発電所と２本の煙突）

煉瓦館にあった写真３（本通り商店街と炭鉱風呂）

三段橋、広場マーケットおよび日本一のマンモス小学校

本通り商店街１（昭和の影が漂う町）

本通り商店街２（昭和の影が漂う町）

旧長崎街道（福母）シュガーロードであり、シーボルト、ケンペル（『日本誌』の著者）も象も通った

旧長崎街道２（福母）

大町広場マーケット１（往時は盛況であったが、今は年配者の社交場）

大町広場マーケット２

CO-OP さが（大町広場マーケットの近く）

炭鉱住宅跡１（昭和の香りの風が吹く）

炭鉱住宅跡２（昭和の風がそよぐ）

炭鉱住宅跡３（昭和の風が吹き抜ける）

ボタ山わんぱく公園から見る炭住跡

杵島炭鉱第４抗の通風抗１（小さな産業遺産）

杵島炭鉱第４抗の通風抗２（小さな産業遺産の中）

杵島炭鉱第４抗の通風抗３周辺

八幡神社（大町）

土井家住宅 1

土井家住宅２

土井家住宅近くの旧長崎街道（大町）

香川県高松市

４．高松市（香川県高松市）の路地から見える歴史と文化

四国を含む南海道には多くの荘園があり、そのなかで代表的な荘園は讃岐の西端には「柞田（くにた）荘園」がある。高松港は生駒親正が野原郷を高松と改称し、高松城の築城と城下町の整備をするとともに築造された。生駒騒動（後継ぎ問題によるお家騒動）後に、水戸徳川家から入封した松平頼重によって高松港の整備・改修がなされた。高松港は御用船、商船、漁船および金比羅船などが入港していた。金比羅五街道の一つが高松街道（琴平街道）である。

上述のように、高松市は、1587（天正 15）に年生駒親正[いこま　ちかまさ：1526（大永 6）年～1603（慶長 8）年：慶長 15 年讃岐高松に移り 6 万 1 千石となり、豊臣政権の中老職となる。関ヶ原の戦いで西軍に属し、敗れて高野山に閉居したが、子の生駒一正の栄達により許されている]が香東郡篦原庄（のはらのしょう：現在の旧市内）に高松城と城下町を築き、それが基礎となっている。松平頼重[まつだいら　よりしげ：1622（元和 8）年～1695（元禄 8）年：徳川頼房の長男で、光圀の兄である]が、1642（寛永 19）年に讃岐高松 12 万石加増転封。戦略的に高松城を水城（みずき）の構えに修築している。頼重は領内治政では、金比羅大権現（こんぴらだいごんげん：金刀比羅宮）をはじめ有名社寺の再興に意を用い、信仰心によって民心安定を図るとともに、高松藩の基礎を築いている。高松市は 1980（昭和 55）年の 386,547 人から、合併等を繰り返し増加傾向となり、2000 年（平成 12）年は 416,680 人、2015（平成 27）年現在の人口は 420,478 人であり、都市雇用圏人口は約 64 万人を形成している。

高松市は四国の支店経済都市であり、本四架橋の開通、四国内の高速交通網整備で四国の拠点都市として発展してきたが、バブル経済の崩壊後の構造不況とともに高松市の経済もその影響で中心部商店街の店舗の閉鎖が進行していった。高松市中心部の商店街（中央商店街）は兵庫町商店街（兵庫は江戸時代に高松藩の武器庫があったのが由来。周りにビジネス街および官公庁があり、平日はビジネスマンが多い。）、片原町商店街（高松城の堀埋めたときに町の片方が原っぱであったとのことが由来。ドームを挟み左に兵庫町商店街右が片原町商店街である。）、丸亀町商店街（南北に伸びる商店街で北はドームまでである生駒親正は当初丸亀城に居住したが、幕府から一国一城の命に従い、高松玉藻（たまも）城に移り丸亀から町人を連れて商売をさせたのが由来。）、ライオン通商店街（高松市の歓楽街であり、丸亀町商店街の 1 本東側にあり、繁華街の中を南北に伸び昼夜人通りがある。この通りの名の由来はライオンカンという洋画系映画館があったことに由来とのことである。）、南新町商店街（丸亀町商店街の南にあり、昔高松市の南限で、南にある新しい町ということに由来。高級衣料品店、ジュエリー店、若者向けジュエリー店、ライブハウスなどがある。）、

常磐町商店街（この地区にあった旅館常磐本館からの名に由来。闇市から出発している。）および田町商店街（南新町商店街の南にあり、江戸時代に田畑がこの地区にあったことに由来。）があり、商店街のほぼ全てを覆うアーケードは総延長が 2.7ｋｍで、総延長では日本一の長さを誇り、丸亀町商店街のアーケードの高さ（ドーム直径 26m、高さ 32.2m）も日本一である。約 800 の小売店や飲食店が軒を連ね、一日の通行量は 28 万人で、丸亀町商店街周辺は全国チェーンの店やデパートにおいて高級品を取り扱う店舗が多く、南新町およびと常磐町商店街などに南進するほど庶民的な店舗となっていた。

近年、高松市郊外に大型ショッピングセンターなどが建設され、消費者の購買行動の変化が生じ、有力テナントなどの撤退、老舗の閉鎖など空き店舗が増え商店街再生が急務であった。その再生のために、丸亀町商店街では、北から A 街区～G 街区までの 7 地区に分けて再開発がなされている。この再開発には地元の丸亀町商店街振興組合とともに国土交通省委託高松丸亀町商店街タウンマネージメントプログラム構築事業の一環でコンサルタント（西郷真理子氏）が大いに関係を持って推進されている。丸亀町商店街や兵庫町商店街は駐輪場が整備されており、丸亀町商店街のなかにはドーム、百十四銀行の整備、評判の讃岐うどんの店舗もあり整備が進んでいる。また、高松丸亀町商店街事業の他に高松港頭地区総合整備事業（サンポート高松）、瓦町駅地区市街地開発事業、琴電片平町駅西地区再開発事業がなされている。

観光としては多くの地があるが、とくに玉藻公園（高松城址）、栗林公園（この公園の起こりは元亀、天正の頃から当地の豪族であった佐藤氏により築庭、その後 1625 年頃生駒高俊、1642 年に松平頼重に引き継がれ、歴代の藩主が修築を重ねて 1745 年に完成。6 つの池と 13 の築山を巧みに配した江戸時代初期の回遊式大名庭園である。）、少し足を伸ばせば金比羅宮[琴平線始発は高松築港：天満屋瓦町（瓦町を分岐に琴平方面 2 番乗場、長尾方面、屋島・八栗・志度方面へ）から琴電琴平まで約 1 時間]がある。

菊池　寛[きくち　ひろし：1888（明治 21）年～1948（昭和 23）年]

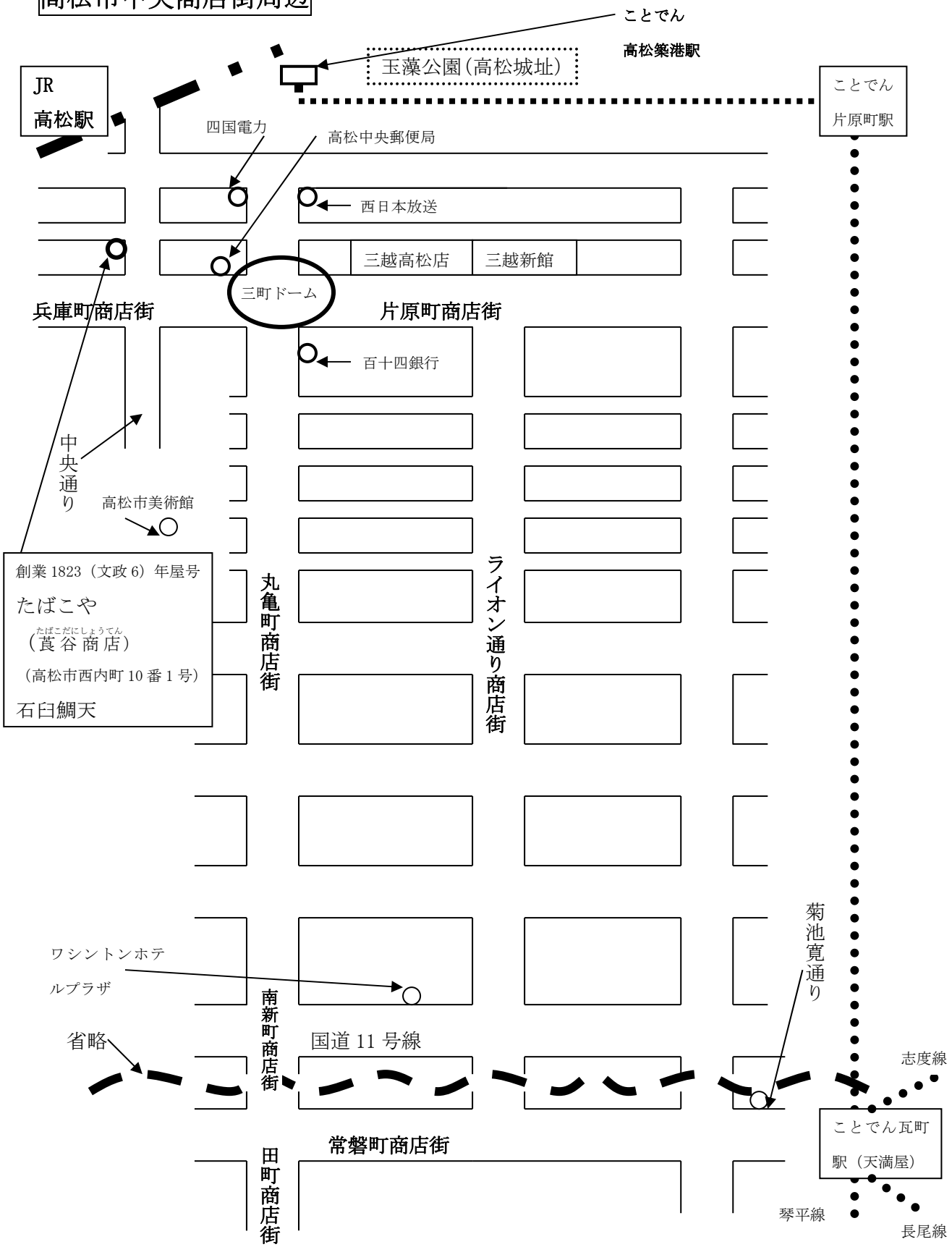
大正・昭和期の小説家・劇作家、香川県生まれ。芥川龍之介や久米正雄らと 1916（大正 5）年第 4 次「新思潮」を創刊。同誌に戯曲「屋根上の狂人」、「海の勇者」、「奇蹟」および「父帰る」などを発表している。これらの戯曲は当時世評に上がらず、時事新報の記者となるが、その後小説「無名作家の日記」、「忠直卿行状記」および「恩讐の彼方に」を発表し一躍流行作家となった。これによって、戯曲も評価されるようになっている。「菊池寛全集」（全 15 巻,1937:全 10 巻,1960）がある[注 23)]。

注

注 23) 参考文献[27]の 397 頁を参照.

[18] http://www.machinakasaisei.jp/committee/introduction/member07.html
[19] http://www.ja.wikipedia.org/wik/
[20] 香川県栗林公園観光事務所「特別名勝　栗林公園案内図」
[21] 香川県社交飲食業生活衛生同業組合高松支部「いいとこ高松―夜のガイドマップ―」
[22] 歴史･文化道推進協議会『四国　歴史文化道』歴史･文化道推進協議会, 2008.
[23] 高松観光コンベンション・ビューロー「高松　TOWN MAP」
[24] 高松市観光振興課「高松遊歩人」
[25] 高松商工会議所『「味」な高松　おすすめガイド 2010』高松商工会議所, 2009.
[26] 新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社, 1995.
[27] 三省堂編集所『コンサイス日本人人名事典』三省堂, 1999.

高松市中央商店街周辺


ことでん
高松築港駅
玉藻公園（高松城址）
JR
高松駅
ことでん
片原町駅
四国電力
高松中央郵便局
西日本放送
三越高松店
三越新館
三町ドーム
兵庫町商店街
片原町商店街
百十四銀行
中央通り
高松市美術館
創業 1823（文政 6）年屋号
たばこや
（莨谷商店）
（高松市西内町 10 番 1 号）
石臼鯛天
丸亀町商店街
ライオン通り商店街
菊池寛通り
ワシントンホテルプラザ
南新町商店街
省略
国道 11 号線
志度線
ことでん瓦町駅（天満屋）
常磐町商店街
田町商店街
琴平線
長尾線

三町ドーム（丸亀町商店街）

百十四銀行創業の地の碑（丸亀町商店街）

百十四銀行（丸亀町商店街）

うどん市場（兵庫町商店街）

兵庫町第２駐輪場（兵庫町商店街）

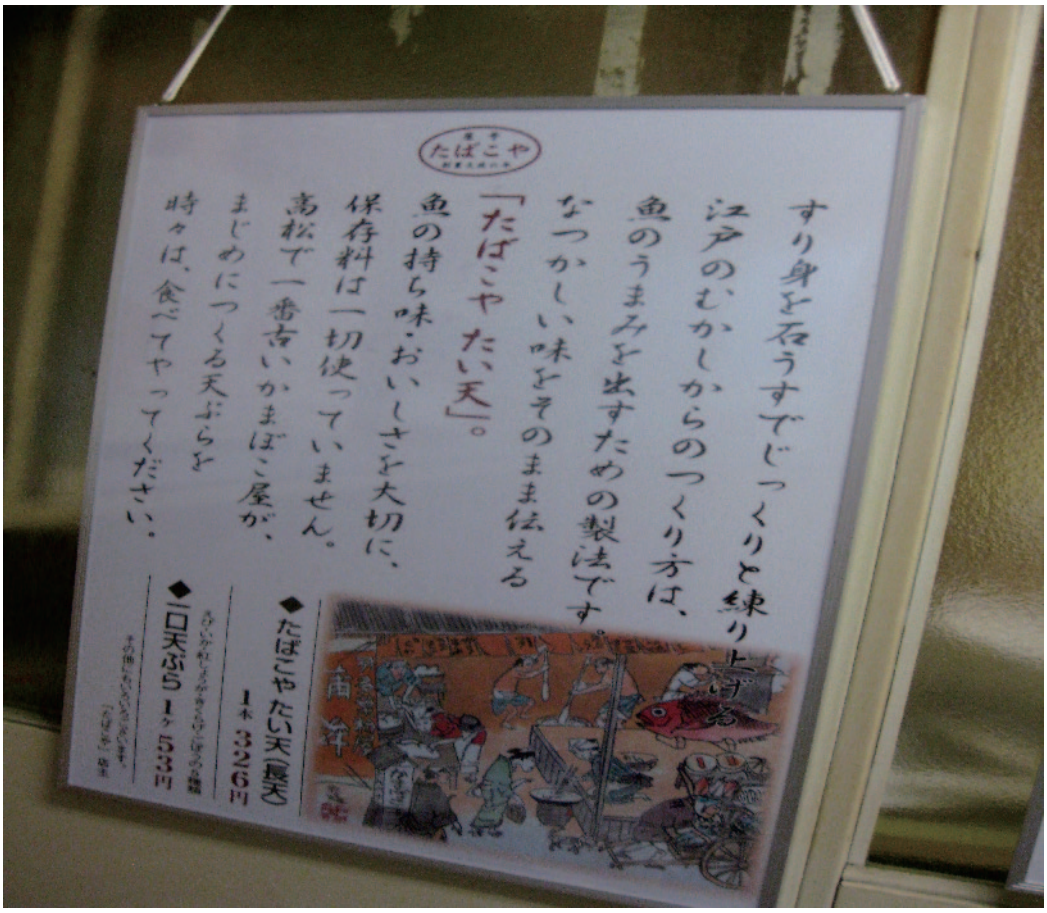
夜の丸亀町商店街

夜の丸亀町商店街

朝の丸亀町商店街

丸亀町商店街からライオン通り商店街方面の朝の歓楽街

「たばこやたい天」（高松市西内町 10 番 1 号）



「たばこやたい天」の説明板（高松市西内町 10 番 1 号）

菊池寛の碑（菊池寛通り）常磐町商店街の一本北の通り

栗林公園

高松城

高松港からの屋島（メサ地形）

香川県琴平町

５．琴平町（香川県仲多度郡琴平町）の路地から見える歴史と文化

琴平町には、JR 四国土讃線および高松琴平電気鉄道琴平線の 2 本が走っているが、過去にはこれらに加えて琴平参宮電鉄[鉄道事業(坂出線、丸亀線、多度津線、琴平線）のみ 1911（明治 44）～1963（昭和 38）年]および琴平急行電鉄[坂出駅から琴急琴平駅：1930（昭和 5）～1954（昭和 29）年]が走っていた。それだけ「金毘羅さん」詣でが多かったことを意味する。日本観光協会編『全国観光動向』によれば平成 19 年度の金毘羅宮観光客は 1 日当たり約 8,594 人で、年間 314 万人であったが、2015 年は 230 万人へと減少している。国勢調査による琴平町の人口は 1975（昭和 50)年 14,153 人、1980（昭和 55）年 13,807 人と年々減少し、2005（平成 17）年 10,747 人、2015（平成 27）年は 9,186 人と 1 万人を割っている。このように観光客数も総人口も減少している。そこで、町は経済産業省と内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用している、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のいわゆるビッグデータを集約し、可視化を試みるシステムである RESAS を利用している。この RESAS による分析で琴平町の持続的発展を模索している。ここで、RESAS（リーサス：Regional Economy and Society Analyzing System：地域経済分析システム：地域経済に関するさまざまなデータすなわち産業の強み、人の流れ、人口動態などを地図やグラフで分かりやすく可視化したシステム：たとえば、当町に住みながら当町で就職した人数、当町から他の都市へ就職した人数、当町に戻ることなく他へ就職した人数）で、観光に特化した町であるので一層のサービス業を強化する施策が必要とのことで、また農業も高い競争力を有しているということで農業振興施策が必要としている。

崇徳　天皇[すとく　てんのう：1119（元永 2）～1164（長寛 2）年]

白川院政のもとで、1123（保安 4）年に 5 歳で即位。1129（大治 4）年白河法皇没後、鳥羽上皇が院政を行い、藤原得子（美福門院）を寵愛して、1141（永治元）年に崇徳天皇に譲位を迫り、得子の子である体仁親王（近衛天皇）を即位させた。この即位を契機に法皇となった鳥羽院は本院とよばれ、崇徳上皇は新院といわれて両者の対立は激化した。崇徳上皇は譲位の際、その子重仁親王を次の皇位につけることを約束していたが、近衛天皇没後、後白河天皇が即位するにおよんで、その政治的不満がつのっている。崇徳上皇は 1156（保元元）年鳥羽法皇の死をきっかけに、院政を行い、左大臣藤原頼長とともに後白河天皇を襲ったが敗れている。これを「保元の乱」といい、崇徳上皇は讃岐の松山に流され、同地で没している[注 24)]。

琴陵宥常[ことおか　ひろつね：1840（天宝 11）～1892（明治 25）年]

金毘羅大権現を金毘羅宮と改め、御本営再営や金毘羅山博覧会を開催した宮司である。1886（明治 19）年、イギリス船「ノルマントル号」が紀州沖で沈没するという事故が起きており、その際イギリス人船員は助かったが、日本人は全員水死するという痛ましい事故が起こった。琴陵宥常は海上安全を祈願し、「大日本帝国水難救済会大旨」を作成するとともに当時の総理大臣黒田清隆に直接訴え、「大日本帝国水難救済会」を創設している[注 25)]。

注

注 24）参考文献[30] 682～683 頁を参照.

注 25）琴陵宥常の銅像にある説明文等より.

参考文献

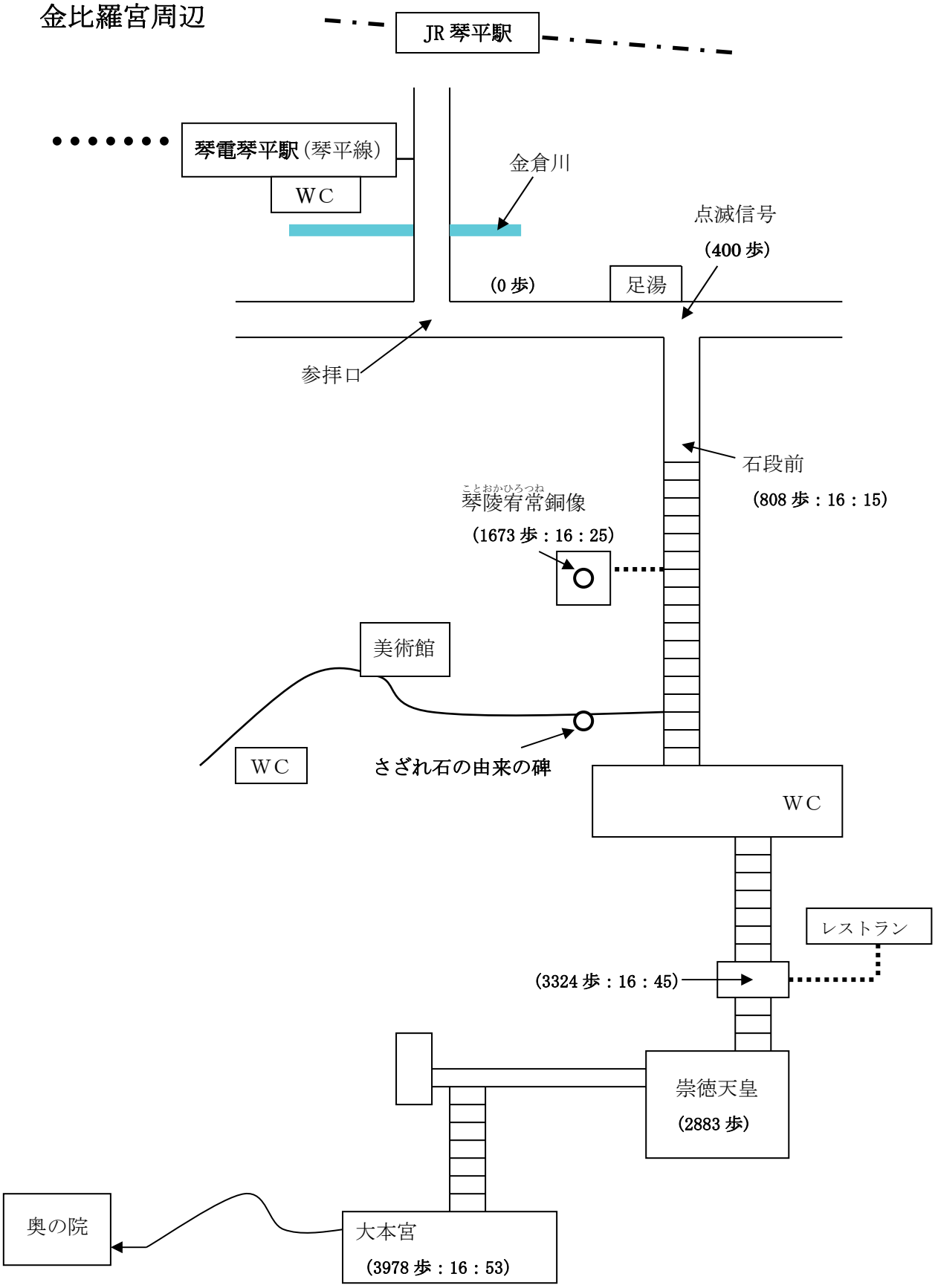
[28] https://forum.resas-portal.go.jp/2015/

[29] http://pyoco3.c.ooco.jp/sikoku/kotosan/kotosan.html

[30] 三省堂編集所『コンサイス日本人人名事典』三省堂, 1999.

☆　ビュート（butte）地形とメサ（mesa）はともに差別浸食（強度の異なる地質が隣接し、軟らかい地層が早く風化・侵食されること）によって形成されたものであるが、前者はメサが開析され頂面が小さい孤立丘となったもので讃岐富士（飯野山）がそれで、後者は台形を示し高松港からの屋島がそれにあたる。香川県にはビュートおよびメサ両地形が多くみられる。

金比羅宮周辺


JR 琴平駅
琴電琴平駅（琴平線）
WC
金倉川
点滅信号
（400 歩）
（0 歩）
足湯
参拝口
石段前
（808 歩：16：15）
琴陵宥常銅像
（1673 歩：16：25）
美術館
WC
さざれ石の由来の碑
WC
レストラン
（3324 歩：16：45）
崇徳天皇
（2883 歩）
奥の院
大本宮
（3978 歩：16：53）

ＪＲ琴平駅

琴電琴平駅

金比羅宮への入口の石段

参道（石段）

金比羅本教

金比羅宮への石段

琴陵宥常　銅像

石段

ご祭神の崇徳天皇（石段の上）

本宮への石段

御本営

御本営

御本営から讃岐平野と讃岐富士（丸亀城址方面）

讃岐富士と丸亀城址（左側）

讃岐富士（飯野山：標高 421.57m）遠望拡大：ビュート地形

御本営

「国歌に詠まれている**さざれ石**の由来」の碑

金比羅山から見えた丸亀城

金比羅山からみる丸亀城の石垣

おわりに

本書で取り上げた「まちおこし」を考える場合、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）のRESAS（地域経済分析システム）によって分析がなされている。将来人口、どの産業に特化すべきかなど、ビッグデータなどを用いて分析を行っている自治体もある。本書の役割は、少子高齢社会において全体的に市場規模が縮小している状況の基、RESASを用いて分析する際の基礎データの一つになるであろう。また、そのシステムを用いないでも本書で取り上げた各市町の「路」を通じて蓄積された歴史や文化を訪れた観光客が知ることによって最近流行のインスタグラム（Instagram）による情宣が可能となる。

もう少し「まちおこし」について考えてみよう[注26)]。その市町などその地域に昔からあったものを生かしている地域として、

長野県最東端に位置する川上村は高原野菜に適した土壌づくり、新種開発、機械導入による効率化、CATV（ケーブルテレビ）導入による農場情報の共有化、産直品のブランディングなどを行っている。

新潟県十日町市池谷地区は限界集落に中越地震で震災復興ボランティアと住民が一丸となった町おこしをスタートし、池谷地区独自の「山清水米」をはじめとする産直品のブランド化や、都市から人を呼び込むエコツーリズム系のイベント開催を行って成功している。

大分県豊後高田市の新町通り商店街。建て替えが進まず昭和30年代でストップした街並みを逆手にとり、2001年「昭和の町」として町おこしがスタートし、観光客が増加している。

隠岐諸島・中之島に位置する海士町はかつて高齢化・過疎化で存続の危機に陥っていたが、島民一体で産業創出や都市交流、教育改革に取り組んだ結果、今では都会から300人のＩターン者が集まる活気あふれる街になっている

本書で取り上げた尾道市、大町町、高松市および琴平町は「まちおこし」は行われて各自治体からの中長期的基本計画に基づいてなされてきている。各市町が持続的発展をつづけていくためには、それぞれ独自の 4 つの引用した地区のような独自の文化や歴史などから生み出す必要がある。最近では、「鯖の水煮」や「料理のツマ」となるような、その地域独自のものが国内外の観光客によるインスタグラムでの拡散およびTVなどのマスコミュニケーションによる健康放映などによって活気づくことにつながるであろう。

注

注26）http://suumo.jp/journal/2012/10/31/31800/　より引用.

［著者紹介］内山 敏典（うちやま としのり）
現在、九州産業大学経済学部教授、九州産業大学大学院経済・ビジネス研究科教授
専攻：統計学,計量経済学 担当科目：統計学,計量経済学およびゼミナール科目（学部）
経済・経営統計,経済学演習,統計・計量研究,経済課題研究,統計・計量セミナー（大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程）,柿右衛門特論（大学院芸術研究科博士前期課程造形表現専攻）
計量経済学特別研究,計量経済学論文演習（大学院経済・ビジネス研究科博士後期期課程）
経済学修士
博士（農学）

主要著書

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』（共著）九州大学出版会,1989 年.
『消費需要の計量的分析―食肉消費を事例として―』（単著）晃洋書房,1992 年.
『間接税改革の国際比較』（共著）九州大学出版会,1993 年.
『統計解析技法』（単著）晃洋書房,1993 年.『消費構造の変容とその統計的分析』（単著）晃洋書房,1995 年.
『余暇関連財需要の計量的分析』（単著）晃洋書房,1998 年.
『増補 統計解析技法』（単著）晃洋書房,1998 年.
『計量分析のための統計解析技法』（単著）晃洋書房,2002 年.
『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』（単著）城島印刷,2003 年.
『看護統計テクニック―基本からパス分析まで―』（監修）医歯薬出版,2003 年.
『続 早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』（単著）城島印刷,2005 年.
『トピックス統計解析技法―電卓,Excel および VBA における計算法―』（単著）晃洋書房,2006 年.
『基本計量経済学』（共著）勁草書房,2006 年.
『経済・心理・医療・看護等の教育のためのベーシック統計解析技法―電卓,Excel および VBA における計算法―』（単著）晃洋書房,2008 年.
『福岡都市圏歴史散策マップ記』（単著）九州産業大学産学連携室, 2009 年.
『有田・伊万里および福岡地域における消費者の意識調査分析―新しい陶磁器需要創造および生産構造をめざして―』（共著）九州産業大学柿右衛門

様式陶芸研究センター,2009 年.
『福岡（筑前）およびその関連地域の歴史散策マップ記―とくに高取焼および元寇を例とした「まちおこし」のための文化・歴史について―』（単著）九州産業大学産学連携室, 2011 年.
『柿右衛門様式学―“やきもの”の技法と歴史及び美―』（共著）九州産業大学柿右衛門様式陶芸研究センター,2011 年.
『統計解析の基礎―データ解析の基本と実践―』（単著）晃洋書房,2015 年.
『旧三瀬街道とその周辺逍遥マップ記―伊能忠敬一行の測量から200年を経過して―』
『唐津・多久・大町地域周辺散策記―歴史的遺産を通じて、現在・過去・未来を考える―』（単著）九州産業大学,2017 年.
『経済・経営・心理・医療・看護等指導者のためのアンケート調査データ解析の技法 - ―ACCESS・EXCEL ソフト、F-BASIC・十進 BASIC・VBA プログラムそれぞれの利用方法―』　MyISBN - デザインエッグ社,2018.

など、著書および専門論文・COE 論文多数.

路地から見る歴史と文化
―「まち」おこしとしての財産を活かすためー

2018 年 11 月 13 日　初版発行

著 者　内山 敏典
発　行　九州産業大学
〒813-8503 福岡市東区松香台 2 丁目 3 番 1 号
℡ 092（673）5215（研究室）

印刷・製本　よしみ工産株式会社
〒804-0094　北九州市戸畑区天神 1 丁目 13 番 5 号
℡ 093（882）1661　Fax 093（881）8467
非売品

©Toshinori Uchiyama